

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書 2012年 6月 18日	
愛知県知事 殿	
提出者 住 所 小牧市大字本庄字大坪415 氏 名 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 株式会社野田スクリーン 代表取締役社長 堀尾 貞夫 電話番号 (0568) 79-0222	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 野田スクリーン
事業場の所在地	小牧市大字本庄字大坪415
計画期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	28：電子部品・デバイス・電子回路製造業
②事業の規模	2011年度売上高：3107百万円
③従業員数	172名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	腐食性廃酸 : 再生処理業者に委託し、銅、スラッジ及びセメント原料として再資源化 引火性廃油 : 再生処理業者に委託し、セメント工場の助燃剤として再資源化

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
(管理体制図)		
<pre> graph TD     A[環境管理委員会] --- B[特別管理産業廃棄物管理責任者]     A --- C[生産技術部 設備技術課 (腐食性廃酸)]     A --- D[製造部 製造課 (引火性廃油)]     C --- E[処理委託]     D --- F[処理委託] </pre>		
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
①現状	【前年度（平成23年度）実績】	
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸
	排出量	181 t
	引火性廃油	4 t
(これまでに実施した取組) 受注量低減の為、排出量が減った。		
②計画	【目標】	
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸
	排出量	181 t
	引火性廃油	4 t
(今後実施する予定の取組) 発生量は加工受注量に比例し、年間加工量が把握できない為、目標は平成23年度実績値とする。 発生量（使用量）の抑制は品質に係る為、困難である。 当該製品の受注量と廃液の発生量の把握をし、適正な発生量の維持に努める。		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項		
①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 腐食性廃酸はタンク、引火性廃油は危険物倉庫へ、それぞれ保管している。	
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし	

## (第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸	引火性廃油
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸	引火性廃油
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も委託による再生利用を継続。		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸	引火性廃油
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸	引火性廃油
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 今後も委託処理による中間処理を継続。		

## (第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸	引火性廃油
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸	引火性廃油
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（平成23年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸	引火性廃油
	全処理委託量	181 t	4 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	181 t	4 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) 腐食性廃酸の委託先を変更し、再生利用率100%となった。 引火性廃油はこれまでどおり99%の再生利用率で推移している。		

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	腐食性廃酸	引火性廃油
	全処理委託量	181 t	4 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	181 t	4 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) 委託先への定期的な実施確認を継続する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。